

IV 「私たちが創るまちが創る政府」

課題領域	めざす方向性	(1) 地域自治型の「賑わい」を育むまち	(2) 明日の賑わいを担う「識見」の子どもたちが育む環境	(3) 市民力・地域力による安心で安心して暮らせるまちの創出	(4) 共に生き、共に創る地域社会の創出	(5) 豊かな地域資源の次世代への継承・発展	(6) 地球温暖化防止など気候・環境への投資	(7) 「賑わい」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生	(8) 公共資産の維持管理と有効活用	(9) 「賑わい」を支えるまちづくり			
生活	(A) 市民生活の安定(安定・落ち着き・安らぎ)	1 身近な地域での暮らしやすさが実現していること	8 市民自ら、人によさし手をとることを育むこと	17 保健・医療・福祉・健康などの生活環境が整い暮らしやすくなっていること	24 挨拶や声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること	35 まちと自然環境の調和がとれていること	46 生活の便利さと環境保全の両方が実現していること	65 身近に親しみや愛着をもてる景観があること	86 市民の財産である自然を守り、育てられていること	73 活気があり、開放的で温かいまちであること			
	(B) 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	2 市民が自覚できるまちであること	9 子どもを安心して育てられる環境があること	18 災害・健康・福祉・健康などの生活環境が不安なく暮らせるまちであること	25 生活環境を守りながら、地域でまとまりがあること	36 誰もが快適に暮らせる、居心地のいいまちであること	47 みんなが協力して、いつまでもまがきれいでいること	67 移動や利用に合わせた道路や施設であること	87 移動や利用に合わせた、誰でも利用できる場所があること	74 いつも自然の豊かさを感じられていること			
	(C) 持続的活動(伝える・維持する)	3 市民自らが主体的に活動していること	10 子どもが、住んでいる地域に誇りを持ち、地域で暮らすことに誇りを感じていること	19 治安の良い環境であること	26 子育て世代を支えている環境があること	37 市民、地域、生活が実現していること	48 豊かな暮らしが実現していること	68 日常生活に安心や豊かさを与えている場所があること	75 豊かな地域資源を大切に、楽しい体験ができるまちであること	78 訪れる人・住む人に配慮した心遣いや工夫があること			
活動	(D) 創造・推進活動(発展・チャレンジ)	4 賑わいを実現できる様々な資源を有効活用していること	11 地域の歴史文化を教育活動に活用すること	20 安全・安心を高める活動が盛んであり、ボランティアの精神が高いこと	28 地域のために一人一人の活動が大切に行われていること	39 身近にある資源が適切に活用されていること	50 市民の環境美化への意識が高められていること	60 まちと若者が多く、活気があること	69 市民が利用する身近な施設が大切にされていること	77 賑わいの魅力が多方面で発信されていること			
	(E) 交流基礎(交流・つながり・連携)	5 地域で協働して、暮らしやすさを創出していること	12 地域協働で、教育や人材育成に熱心であること	21 市民が協力し合い、安心して住みやすいまちであること	29 思いやりのある世代、いろいろな人たちが交流していること	41 調和のとれた景観が実現されていること	51 先進的な環境対策がとられていること	61 観光により地域が元気になること	76 常により良い地域にしようとする市民が活躍していること	79 市民の意識が高く、市民参加型のまちづくりが進んでいること			
基盤	(F) 市民生活の基礎(学ぶ・育む・人材育成・仕組みづくり)	6 誰でも気軽に市内の情報発信したり、得ることができること	13 地域が子どもを育て育む環境であること	22 様々な世代が、快適に暮らせること	31 社会的弱者の方々が快適に暮らせること	42 市民同士が協力し合いながら暮らしていること	52 周辺自治体や他地域と共に環境対策を進めていること	64 商店街と大型店舗が共存共栄し、活気あるまちになっていること	71 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること	80 市民と来訪者が交流できる機会や場があること	81 地域の記憶や文化が継承され、発展すること	82 賑わいならではの取りこみがあること	83 子どもから大人まで、文化に馴染める環境を整えていること

表5 ふじさわ未来課題マトリックス (鶴沼地区)

①協働型の課題解決で課題向上へ
 ②強みや魅力の維持・向上を
 ③より効率的に課題の維持を
 ④熱意と根拠ある未来戦略を